

# Hello! FUJISEI

No.83

平成24年から新しい生命保険料控除制度が導入されます。従来からある一般の生命保険料控除および個人年金保険料控除に加え、介護医療保険料控除が新設されます。これは、介護および医療に対する準備の必要性が高まり、自助努力としての生命保険による準備が社会的に求められ、そのための国による税制面での支援が設けられたということになります。

とりわけ、4人に1人が65歳以上という「超高齢社会」が到来するといわれ、介護問題への関心が高まっています。介護問題には、自分の介護と家族の介護がありますが、平成22年9月に実施された「介護保険制度に関する世論調査」によると、家族が老後に寝たきりや認知症になるかもしれないと、不安に思うことがあるかという質問に対し、「ある」が77.6%（「よくある」34.2%+「時々ある」43.4%）、「ない」が18.0%（「あまりない」13.0%+「まったくない」5.0%）となっています。前回の調査結果と比較してみると、「ある」（73.5%→77.6%）が上昇し、「ない」（25.3%→18.0%）が低下しています。

仮に家族が、老後に寝たきりや認知症になり介護が必要になった場合

## 高まる！介護への準備の必要性

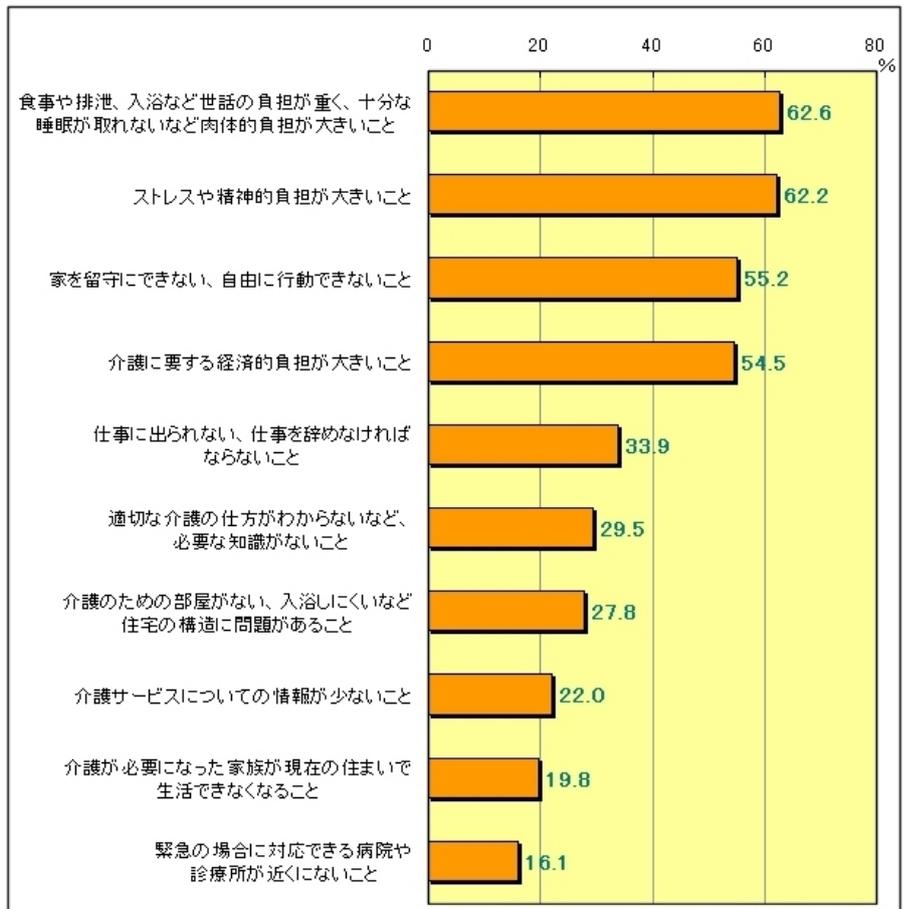
# 家族の介護で肉体的・精神的な負担大に不安

にどのようなことに困ると思うか、また、現在、寝たきりや認知症の家族がいる人はどんなことに困っているかを聞くと、「食事や排泄、入浴など世話の負担が重く、十分な睡眠が取れないなど肉体的負担が大きいこと」が62.6%、「ストレスや精神的負担が大きいこと」が62.2%と高くなっています。以下、「家を留守

にできない、自由に行動できないこと」「介護に要する経済的負担が大きいこと」などの順となっています。

都市規模別では大きな差異は見られませんが、性別では、「ストレスや精神的負担が大きいこと」「家を留守にできない、自由に行動できないこと」は女性で高くなっています。

### 家族に介護が必要となった場合に困る点（複数回答、上位4項目）



内閣府「介護保険制度に関する世論調査（平成22年9月調査）」より